

【OP 級】規則 42 ガイド

2023年 7月

はじめに

この文章は、OP級のジャッジとセーラーのためのガイドである。ワールド・セーリングは公式の規則42の解釈も発行しており、このガイドでは“スカル 1”などと表記している。

規則42を判断するための原則

1. ジャッジはセーラーに対して疑わしきは罰せず、であるが、セーラーが規則 42 に違反していると確信した場合、規則を守っているセーラーを保護するために行動しなければならない。
2. ジャッジは通常、2 名が違反を目撃した時にペナルティーを課す。ただし、スタート前、またはマークやフィニッシュ付近での違反は、ジャッジが1人しか見ていない場合も、ペナルティーを課すことがある。

規則 42 に影響のあるクラス規則：なし

クラス特有のテクニックと違反

OPのセーラーは、体重、体格、経験ともに幅広い。船体は短く、平らなバウ。
アップ・ウインドでは、体重の重いセーラーは、波を乗り越えるために体を動かし続けて前後のトリムを調整する必要がある。
一方、経験の浅いセーラーは、オーバー・パワー時にボートを直立させるテクニックが身につけていないため、体を動かし続ける必要がある。
ダウン・ウインドでは、重いセーラーがサーフィングできないとき、軽量のセーラーがサーフィングをすることがある。

アップ・ウインドでは、メイン・セイルの形とパワーはメイン・シートでコントロールする；良いセーラーは風や波に合わせてメイン・シートのテンションを調整する。
ガスト（風のひと吹き）でリーチがフリックしないような体の動きは、ガストではリーチがフリックしないが、風が弱いとフリックしてRRS42.2(a)に違反することがある。

OPのラダーは大きいので；力強く動かすと艇は旋回し、ゆっくりリズミカルに動かすと艇は推進する；ロール・タック中の体の動きのタイミングが良ければ、タックの最初の部分を速く帆走していても、タックの最後にはRRS42.3(b)に従うことが可能である。

ランニングで艇は最初に十分に広がってフレッシュ・ウインドを確保し、その後、風下マークまでダイレクトなコースを帆走する。軽風では逆ヒールが大きい。したがって、規則42を中央から判断するのが現実的である。センター・ボードを完全に上げ、メイン・セール、センター・ボードを完全に上げ、メイン・セイルを完全に緩めた艇は、突然ロールすることがあるが、セーラーは通常、すぐにバランスを取り直すことができる。

OPの規則42違反は、通常簡単に見つけることができる。アップ・ウインドまたはダウン・ウインドでセーリングしているフリートほとんどの艇が規則42を遵守していることが確認できる。

最大の課題は、優れたセーラーや体重の重いセーラーによるシートや体の調整が単なる「グッド・セーリング」なのか、それともRRS42に違反するものなのかを見極めることである。

特に波による体の動きについては、その艇が帆走している波を見る必要がある。規則42に違反するかどうかを判断するためには、艇が帆走している波を見る必要がある。ジャッジはペナルティーを課すのに十分な自信が持てるようになるまで、1レース以上イエロー・ライト・エリアにある艇を観察しなければならないかもしれない。

スタート時

スカリング

規則42違反のほとんどはスタート時に発生し、そのほとんどは次のような艇によるスカリングである。

風位の近くに留まろうとする、特にスターボード・エンドの本部船に近いところ。

想定される違反は、両方向への力強いスカリング（RRS 42.2(d)、SCULL 2）、ポジションを保持するため、あるいはメインセイルを後退させる効果を相殺するため（SCULL 3）、クローズホールド以下でのベア・アウェイのためのスカリング、クローズホールド以下で、艇を推進させるゆっくりとした繰り返しのスカリング（多くの場合、前方の艇と艇の間に入る）。

許される動作：

- 艇を推進させない、または後進を防ぐような穏やかなセンターラインを越えたラダーの動き
- たとえ力強くても、艇がクローズホールドのコースより風上であり、明らかにクローズホールドのコースへの方向転換をしている場合のスカリング - 42.3(d)、スカル1
- 減速のために舵を繰り返し動かすこと - 42.3(f)

禁止される動作：

- 艇が直ちに風位に立つのを止めるため、または他艇の風下に滑り込むための、クローズホールドのコースより風下でのスカリング

注：この行為がRRS 42.2(f)に違反するためには、クローズホールドコース以下で2回の力強いラダーの動きが必要である。

- 左右両方向への力強いスカリング - スカル2

注：ラダーが大きいということは、OPは1回の力強い舵の動きで、クローズホールドから風位近くまでターンできることを意味する。このようなラフの後に、ベア・アウェイするための1回以上の力強い舵の動きが続く場合、その艇はRRS42.2(d)に違反する。

- カニ歩き。ただしセイルを逆に張ることによる操舵を打ち消すに十分な力強いラダーの動きに限る。 - スカル3
- 艇を推進させるような横から横への繰り返しの舵の動き（風が弱い場合に起こりやすい）

証拠の収集:

- ティラーの動きは力強いのか？
- 艇を前進させているか、後進しないようにしているか？
- 艇はクロスホールドのコースより風上であり、明らかにクロスホールドのコースに方向を変えているか？
- 前のスカリングを打ち消すようなスカリングか？
- セールを逆に張っている場合、スカリングで艇のコースが変わらないようにしているか？

ロッキングとパンピング 規則42.1 原則違反

スタート前、最も一般的な艇によるロッキング違反は、前列にいない艇が、前方の艇と艇の間に進ませようとするものである。スタート後、艇はロックまたはパンプで風上または風下の艇の前に急に出ようとしたり、航路権艇の前を横切ろうとしたりする。ロールはセーラーがインからアウトに動くことによって開始される。パンピングは通常、体のインとアウトの急な動きで行う。

明らかにボートを推進させるような1回のロールまたはその他の体の動きは、RRS42.1に違反する。この違反は艇が風下側へヒールされ、すぐに直立されるスタート直前に起こりやすい。

また、艇がピンマークをクリアしようとしたときや、航路権艇の前を横切ろうとしたときにも起こりうる。

スタート直前に艇が1回ロールしたのを見たジャッジは、次にその艇が同じエリアで2回目のロールをするかどうかを監視し、ペナルティーを課すべきである。

スタート前に風下側に間隔を作るため、スターボード・タックの艇はポート・タックにタックし、直ちにスターボード・タックにタックしてもよい。もし両方のタックがロールを含み、艇がポート・タックでクロスホールドに達しない場合、RRS 42.3(b)は適用されないため、艇はRRS 42.2(b)(1)に違反する。

許される動作:

- 艇を明らかに推進させない 1 回のロール

禁止される動作:

- 艇を明らかに推進させる 1 回のロール - 基本 4
- 艇を繰り返しローリングさせること - 42.2(b)(1)
- 体の動きによるメイン・セイルの繰り返しのフリック-42.2(a), -パンプ6
- 2回のロール・タックで2回の間にクローズ・ホールドのコースに達しない。 - 42.2(b)(1)

証拠の収集:

- 競技者が、艇のロールを引き起こしているか？
- 1 回のロールまたはパンプは、艇を明らかに推進させているか？
- ローリングまたは、パンピングは(2回以上)繰り返されているか？

- 不完全なロール・タックの後、タックバックする際ロールが含まれるか否か？

ビート

1. パンピング、ロッキングとトルキング（繰り返しの前後または回転する体の動き）
OPが波のを風上に向かって帆走中しているとき、ハルの大きさと形状から、特に体重の重いセーラーは、継続的に、体を前後に動かして、波を乗り越えたり、波を回ったりする操船をする。ガストでセーラーは身を乗り出してメイン・シートを締め、ラルになるとその逆をする。波や、これらの体の動きは、船体のトリムやセイルの形状に影響をあたえる。

ジャッジはリーチのフリックの原因となる体の動きを区別する必要がある(RRS42.2(a))、艇体のロールを引き起こしている可能性のある体の動き(RRS42.2(b)(1))を区別する必要がある。ペナルティを課す前に、ジャッジは観察されたフリックやロールが波のパターンではなく、ヘルムが体の動きによって引き起こされたものであることを確認する必要がある。ペナルティーを確信を持って行うには、複数の角度から、また比較的近い距離から艇を見る必要があるかもしれない。

許される動作：

- 波のパターンに合わせた、艇の前後トリムを変えるためのトルキング - ウーチ 1

禁止される動作：

- リーチのフリックを引き起こす、過度なトルキング - パンプ 6
- 平水面でのトルキング - ウーチ 2
- 繰り返しリーチをフリックさせる体の動き（アカ汲み中でも）-42.2(a)または艇をロールさせる-42.2(b)(1)

または、明らかに艇を推進させる効果のある1回の大きな体の動き - 基本 4

証拠の収集：

- 波があるか？
- セーラーの体の動きは波と強め合っているのか、波に反応しているか。
- もしリーチがフリックしていて、その原因はセーラーの動きによるものか、波によって引き起こされたものか？
- フリックは繰り返されているか？
- 1回のボディー・パンプが明らかに艇を推進しているか？アカ汲み時の過度な体の動きか？

スカリング、風上マーク

風上レグで最も可能性の高いスカリングの違反は、リズムカルなラダーの動きが艇を推進させる微風時である。風上マークをフェッチングするのが困難な艇は、スカル、パンプ、ロッキング、または規則42に違反するような単一の体の動きをすることがある。マークと接触しているとき、艇はスカルすることが許される。マークと接触しているときにスカルすることは許されるが、それはマークから離れるた

めだけである [RRS 42.3(h)]。

リーチレグ

ジャッジは艇を観察し、実際にサーフィングまたはプレーニングの条件かを確認すること。波の角度が重要であり、タイトなリーチではOPがサーフィングやプレーニングができる可能性は低い。

サーフィングのコンディションではない場合、最も一般的な違反はシート・パンピングである。より強い風と波では、良い操舵は絶えずセイルをトリムし、ハルのトリムを調整し、舵を切って波の上で良いスピードを維持する。最もありがちな違反はボディーパンピングや違法なシートパンピングである。

艇は風下か後方から観察するのが最もよく、リーチのフリックとヘルムを体やシートの動きとを結びつけるのが最も簡単である。

パンピング（ランニングでも適用される）

許される動作：

- その時の状況に合わせて、艇をトリムするためのセイルの引き込み - パンプ 2
- サーフィングまたはプレーニングを開始するために一波またはガスト（風の一吹き）に 1 回、セイルをパンプすること。ただし、艇がサーフィングしていると認められるためには、急に加速しながら波の前面を下るものでなければならない。 - 42.3(C)
- たとえそれが成功しなくても、できるかどうか微妙な時のサーフィングまたはプレーニングさせる 1 回の試み - パンプ 7
- 緩めているシートを突然止めることによるリーチのフリック-パンプ 4

禁止される動作：

- 風や波に対応せずにセイルを（少量でも）トリミングすること - パンプ 1
- 波やガストでセイルをもう一度引き込むこと
- サーフィング中またはプレーニング中のパンピング - パンプ 12
- 連続三回の失敗した、プレーニングまたはサーフィングの試み - パンプ 8
- リーチのフリックを繰り返し起こすボディー・パンプ - パンプ 6

証拠の収集：

- レグのこの時点の条件で、艇はサーフィンやプレーニングが可能か？
- セイルのトリムやリリースは風のシフト、ガストや波に対応しているのか？それともそのような要素とは無関係で、ただセイルをファンニングしているのか？
- 波やガストごとにセイルを1回引くと、サーフィングやプレーニングが始まるのか？2回目？
- サーフィングやプレーニングをしている艇がシートを引き込んでいる時、パンピングなのかスピード、コース、風の変化に合わせてセイルのトリムを調整しているのか？
- サーフィングやプレーニングに失敗した艇は、1回の波で何回セイルを引き込むのか？
- リーチのフリックは体の動きと関係があり、体の動きが原因なのか？

ランニング

パンピングとウーチング

OPはリーチよりもランニングの方がサーフィングがしやすく、長い距離、波に乗れるかもしれない。

前記 リーチレグのすべてのパンピングアクションと**証拠**が適用される。

最も可能性の高い違反は、次のようなものである：

パンピングをしてサーフィングをしないこと、すでにサーフィングをしているときにパンピングをすること、サーフィングを始めるために波の上で2回目のパンピングをすること、許可されたシート・パンピングと同時に体を揺らすことである。また、急に前方への体の動きを止めることはウーチングであり、RRS42.2(c)に違反する。

OPは、ランのレグのスタートで広がったのち、通常、風下マークまで平行コースを帆走する。

このことはジャッジがフリートを左右からではなく中央から見ることを**許容**する。

ロッキング

OPは通常、風上に向かって安定したコースと一定のヒール角を保つ。その安定性は、メイン・シートがどの程度緩められている、センター・ボードがどの程度（あったとしても）水中にあるかによって決まる。

バックグランド・ローリングは通常突然で、セイラーが素早く止めることができる。波の角度がコースを横切る場合、波のパターンに連動した操舵があるかもしれない。

許される動作：

- 艇の復元性が減少した際に、艇を適切なトリムに戻したり、乗員が固定された位置にいたりすること - ロック 1、ロック 4
- 風上に向けるのを促進するために風下側にヒールさせることと、ベアを促進するために風上側にヒールさせることが、艇のターンと一致している。 - ロック 6

禁止される動作：

- 体のリズムカルな動きによるローリングの誘発-42.2(b)(1)、
または操舵によるローリングの誘発-42.2(b)(3)。これは微風で平水時に起こりやすい。
- 波のパターンに関連しない、あるいは波や他の理由なしにコースを変更するための艇のローリングを繰り返すこと。-ロック7
- サーフィングを開始するためにシートを1回引くと同時に1回のロールを繰り返すこと。
- アカを汲み出すためであっても、体の動きによってローリングを繰り返すこと。

証拠の収集：

- 競技者は艇のロールを引き起こしているか？ローリングは波のパターンと連動しているか？
- ローリングは艇の操舵を助けているか？艇のヒールの量は艇のコース変更と一致しているか？
- ローリングで艇の操舵を容易にする状況であるか？

チームレース

OPのレガッタでは、しばしばアンパイア制のチームレースが行われる。規則42との大きな違いは、チームレースで最も一般的な違反は規則42.1違反である。チームレースで、艇が相手艇に追いついたり追い越したりするのに役立つ推進方法を1回行った場合である。

競技の公平性を保つためには、アンパイアがこのような1回の動作の違反を監視し、ペナルティを課すことによって、規則42の遵守を確立することが重要である。違反は、たとえ一人のアンパイアしか見ていなくても課せられるべきである。

チームレースは、フリートレースをスタートするには不十分すぎる風の中でスタートすることがある。非常に弱い風でのレースは、準備信号からアンパイアが規則42を適用し、特にロッキング違反、規則42.3(b)に従わないロールタックやジャイブにペナルティを課すことができれば、通常はフェアである。

艇がレース中から規則42を厳格に遵守させることが重要である。スタート1分以上前のペナルティは、艇にペナルティを課し、良いスタートを切る時間を与え、アンパイアが規則42違反にペナルティを課すことを全艇に思い出させる役割を果たす。

チームレースで起こりうる許可された行動：

- マークを回航する操舵のためヒールをさせ、シーマンライクなやり方で艇を直立させることは、たとえ艇を推進させたとしても許される。-ロック6

チームレースで起こりうる禁止された行動：

- 特にスタート前またはスタート時に艇を推進するような1回のロール。-基本4
- ピンエンドのスタート・マークをクリアしようとする艇によるスカリングまたは体の動き-基本4
- 艇を推進する、規則42.3 に従わないロールタックまたはジャイブ。

注：この判断は、タックまたはジャイブの終了時に艇のコースに対して垂直な方向を見て、タックまたはジャイブ後の2秒間に艇速が維持されるか減少するかを判断するのが最も良い。

タックまたはジャイブが完了した後の2秒間に、艇速が維持されているか減少しているかを判断することである-基本7

両アンパイアが次のタックまたはジャイブを見ることはしばしば可能である。艇の次のタックやジャイブは“イエローライトエリア”にある。

- 最初のタック後、艇がクローズホールドに達しない場合、2回のロールタックを連続して行うこと。

この操船は規則42.3(b)に従わないので、規則42.2(b)に違反している。

- 風上へのビートでオーバーラップしたとき、風下艇がボディ・パンピングまたはロッキングでギャップを縮め、風上艇を減速させようとする。-規則 42.2(a) または (b)。
風下艇はまた艇を推進する1回の体の動きをすることによっても規則42.1に違反する。

- 風や戦術に関係のないタックやジャイブを繰り返すこと-規則42.2(e)。
注：2人の対戦相手がともにタッキングまたはジャイブを繰り返し、その結果速く進んでいる場合、両者ともペナルティを課す。
- 減速操作の後、ベアアウェイするためにスカリングすること（マーク2が多い）-規則42.2(d)。
- 軽風時にペナルティを受けながらスカルすること-規則42.2(d)

セーラーのためのヒント

1. ワールド・セーリングの規則 42 「推進方法」の解釈をダウンロードして勉強すること。
2. もし規則42のペナルティーを受けた場合、ジャッジになぜペナルティーを受けたのか説明を求めましょう。
レース終了時に見つからない場合は、次に陸に上がったときに聞いてください。
3. テクニックについて確信が持てない場合は、ジュリーに文書で説明を求めましょう。
そうすることで、フリート全員がその答えから利益を得ることができる。
4. 通常、重要な大会であればあるほど、ジャッジと競技者の比率は高くなり、ジャッジも経験豊富である。
そのため、あなたのセーリングテクニックは、本当に重要なときに最も厳しくチェックされることになります。